



「たわわに実るタワー（Tawawa Tower）」は、都市の中で失われつつある“たわいもない関わり”を再び育てることを目指したタワーマンションである。1～6階には商業施設を配置し、周辺地域に対して開かれた賑わいと日常的な滞留を生み出す都市の基盤とした。7～10階には住民と地域の双方が利用できる共用部を積層し、カフェや小広場、ワークスペースなど用途の異なる居場所を点在させることで、目的を持たない立ち寄りや偶然的な出会いを誘発する。11～40階には多様な世帯が暮らす住居層を配置し、生活の気配が上下方向に重なり合う立体的な居住構成をつくり出す。建物全体には段層的に緑を挿入し、低層から上層へと連続する立体的なグリーンネットワークを形成する。緑に導かれて人が集い、自然に生まれる会話や視線の交差が、住民と地域を包み込む“たわわな実り”となることで、都市における新しい共生のあり方を提示する。

建築デザイン

- ①パネル(1点)：縦178.2cm×横336.4cm
 - ②1/200模型(1点)：高さ63cm×縦56cm×横120cm
 - ③1/100模型(1点)：高さ45cm×縦27cm×横45cm
- 令和8年 筑波大学芸術専門学群 卒業研究・作品集より

このコーナーでは、筑波大学芸術系ならびに同大学の芸術専門学群を卒業された方々のご協力のもと、芸術作品を掲載しています。